

## CIEC 外国語教育研究部会第 8 回学習会報告

テーマ 「iBooks Author を使った電子書籍教材作成 一日ワークショップ」

日時 2015 年12 月20 日(日)10:00~12:30, 13:30~14:10

会場 大学生協杉並会館 地下会議室103・106 (東京都杉並区和田3-30-22)

講師 Dr. Valerio Luigi Alberizzi

(早稲田大学グローバルエデュケーションセンター准教授,  
Apple Distinguished Educator)

参加者 6名

### ■概要

iBooks Author を前もってインストールしてある Macintosh Laptop や iPad を参加者が持参し、基本的な手法を学ぶ形の集中的な一日ワークショップであった。午前中は基本的な eBook の制作方法の基礎、午後は各自の興味のある外国語教育・学習用 eBook 作成のためのノウハウについてさらに深める研修となった。

### ■当日の流れ(午前)

○10:00-12:30 iBooks Author 入門ワークショップ

はじめに、主催者挨拶、講師挨拶、参加者の自己紹介があった。

バレリオ先生は、日本に15年間在住され、言語学がご専門の研究者である。日本語が堪能で、講話もすべて日本語でなされたので、講義も大変わかりやすく進んでいった。日本語の研究の他、大学では、イタリア語の指導をされており、ご自身で iBooks Author で作成された教材を見本に手順を説明していただいた。

イタリア語プログラムのコーディネーターとして就任されたが、当時 ICT を活用した授業は、環境面で恵まれていなかったこともあり、それほど活発には、なされてはいなかった。CD player, テープレコーダーを使う教員が多く、学生の興味、能力にも差があった。そこで、どのようにすれば効率よく学習



させることができるかに興味を持ち、教材作成に携わってきた。代表的な教材は、「イタリア語入門」(iBooks Author を使い作成) である。

午前中は、バレリオ先生から、iBooks Author の基本的な操作方法についての指導をいただいた。iBooks Author を使うと、幅広く、パワフルなマルチメディア教材ができる。汎用性に制限がかかるが、テンプレートに従って作成していくと、簡単な操作でバラエティに富んだ魅力ある作品(教材)を仕上げることができる。標準機能が優れている。以下、ご指導いただいた内容を、箇条書きでまとめてみる。



#### ■ iBooks Author で、できる機能

- (1) 文字やアイコンのタップ、タッチによってポップアップし、語彙や文法項目の説明や示唆を行う。視覚で説明するギャラリーを設定することができる。
- (2) 練習問題をさせ、クラウド経由で教師に提出させることができる。
- (3) ロールプレイ、クロスワードパズル、回答を表示し、自己評価ができる。指で、空欄をなぞると正解を提示させることができる。
- (4) フルページを使いページをスワイプさせる。(一つのセクションで有ることが提示できる。)
- (5) 地図の利用・・・地図の情報をタップすることにより、ビデオ、画像の情報を提示することができる。地図の中に情報をひとまとめにすることができる。
- (6) 透明レイアウトの利用 (後で記述)・・・タップで情報を表示させる。

#### ■ 作成の実際 1

- (1) マイテンプレートの作成・・・横のテンプレートの方が効率良い。  
テンプレートの中の「料理本」は使える。写真、商品の紹介のテンプレートはきれいにできる傾向がある。
- (2) バックの色・・・白は、見えにくい(ハイライトが強すぎる、目が疲れる。) 背景は、白よりもグレーが良い。(あるいは、ライトグリーンなどがお薦め。)
- (3) 入れたい画像の量などを最初に考えておく。構成段階で、しっかりと計画しておくことが大切である。文法、語彙、背景等何を埋め込むか最初に決めておく。学習者のレベルに合わせた、操作の埋め込み(スクロール、タップ)

■作成の実際2 一教材を作る前に構造をきちんと考えなければならない。

- (1)チャプターやセクションは動かすことができる。
  - (2)ページは動かすことができない。ページに埋め込んでしまい、後で違うセクションやチャプターに移動させようとしてもできない。
- ※ セクション単位で作っていくことが効率的である。

(3)インスペクターの機能

すべての動画などのオブジェクトがインスペクターに格納されている。  
☒を入れる、⇒インスペクター、グラフィックで色を変える。

■作成の実際3

- (1)アルファの活用＝選択した部分の透明化
- (2)アイコンのカスタマイズ＝ツールバーの空欄部分を右クリック→「ツールバーをカスタマイズ」で、できる。
- (3)スタイルの活用・・・フォントを一部選んで、スタイルの複製をする。  
スタイルの再定義(双六ゲームの例) →レイヤーの概念
- (4)アルファを使って透明部分を作成→カラーをクリック、ドラッグ
- (5)必要な情報や音声の埋め込みはドラッグ&ドロップで
- (6)アンカーの設定、フローティングテキストはおすすめ。
- (7)音声のフォーマットは、mp3 でなくても .m4i でよい。

■レイアウトと操作の二つのメニュー (イメージと音声ボタンを合体させる。)

- (1)理想的な画像のサイズ、150 ピクセルか 150 ピクセル以上
- (2)play 機能を画像にタップで再生の機能にする。
- (3)透明レイヤーの活用、ウィジェット⇒ポップオーバ (ポップオーバーレイ)  
違和感の無いテキストの高さ 50 point  
例 メモリゲーム (神経衰弱)、ウィジェット・メニュー、メディア・ウィジェットの活用  
※ 再生等のボタンは、テキストの上に隠せばOK。
- (4)配信方法 iTunes U を使うと効率的。

○12:00-13:30 休憩

■当日の流れ(午後)

午後からは、参加者の作成したい教材について、作成のポイントや、効率よく作業を進めるコツをご指導いただいた。

作成する教材として、中学校英語教材の復習教材（ワークブック的なもの）を作成したいという希望があった。講師からは、「活動と練習を埋め込んだ教材を作成してはどうか」という提案をいただいた。」

教材の本時の目標：「過去形を使って発表すること」（1年生 Lesson 9）

■ ウィジェット (Book Widgets) を使って教材を作る。

iBooks Author は、単体でも機能が充実しており、簡単によい教材を作ることができる。しかし、Third Party のソフトを取り入れることでもっと強化できる。代表的な Third Party ソフトとして、Book Widgets を取り上げ、活用方法を指導していただいた。

Book Widgets を使用した教材の例

<https://www.bookwidgets.com/widget-library>

■ ブックウィジェット (Book Widgets) でできること。

iPad, Mac, Windows, Chromebook & PC Android に対応している。

教師自身で作ったウィジェットを学習者に配信することができる。

- (1) ウェブ上で送る。
- (2) アプリケーションで送る。
- (3) コンテンツの配信、保存、名前を付けて保存、ウェブ上にアップロードすることもできる。
- (4) メールで送ることもできる。
- (5) クラス毎に CVS にまとめることもできる。
- (6) 個人の成績も抽出することができる。書き出しも可。
- (7) デジタル教材とウィジェットの連携  
教材に埋め込んで、自動フィードバック  
指導者の共同作業で遠隔作成ができる。
- (8) 学習者(学生)が作成した作品の公開（ギャラリーウィジェットの利用）
- (9) キャプションの利用、オンザページウィジェット

※ その他

グループでまとめる。学生に解答を送らせるか送らせないかの設定。試験モードの設定。テスト後解答を見せるか、見せないか。スコアを見せる、見せない等も設定できる。パスワードの設定も可能。

■ その他のアプリの活用例

キーボードの「リンクを付ける」、「マジックムーブ」機能の利用  
ドラゴンディクテーションの導入の提案。

■講師からのアドバイス(まとめ)

教材の構想をまずしっかり作ること大切。例えば、「こんな、教材にする。」というイメージ持つこと。そして、それに加えて、「目標」を何にするかという、明確なアイデア。(目標の具体例：文法、単語(語彙)、背景の理解)

文責：眞崎克彦 (明石市立中崎小学校)